

# 株主通信 (第87期 第3四半期)

2021年4月1日～2021年12月31日

Passion for the Next Innovation

～次なる革新への熱い思い～

株式会社 電業社機械製作所

証券コード 6365

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、第87期 第3四半期の株主通信をお届けいたします。

2020年度からスタートした3カ年計画の「中期経営計画2022 D-Active」は、2年目となる今年度期初に「+1UP (プラスワンナップ)」として、1年目よりも更に高い目標を掲げ、その達成に向けて全社一丸となって取り組んでおります。今年度は、国内外で新型コロナウイルス感染症の影響等により市場環境は不安定な状況が続いていますが、当社は期初の受注残が豊富であったことに加えて、官需向けの受注が堅調に推移しており、これらの案件を確実に売上げることで中期経営計画に掲げている経営数値の達成を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年3月

代表取締役社長

村林秀晃



## 事業の概況

### ■経営環境

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国や中国経済の回復、各国における新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の普及に伴う経済活動の再開等により、全体として持ち直しの動きが続きましたが、世界的な半導体の供給不足、原材料やエネルギー価格の高騰、変異株による感染再拡大を受けたサプライチェーンの停滞等により、夏場以降の回復ペースには鈍化が見られました。わが国経済については、個人消費や設備投資などで持ち直しの動きが続いたものの、半導体の供給不足の影響などにより、生産では回復の動きに足踏みが見られるなど、依然として先行き不透明な状況が続いています。

### ■経営成績

当第3四半期連結累計期間における受注額は、大型案件を受注できた官需部門は堅調でしたが、顧客の発注時期の遅れ等により海外部門が前年同期に比べて減少したことなどから、前年同期比81.3%の15,785百万円となりました。売上高については、官需部門と海外部門が前年同期に比べて増加したことなどから、12,157百万円（前年同期売上高10,385百万円）となりました。利益については、前年同期に比べて売上高が増加したことなどから、営業利益は284百万円（前年同期営業利益28百万円）、経常利益は410百万円（前年同期経常利益184百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は315百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益166百万円）となりました。

当社グループの売上高は、公共事業物件の割合が高いため連結会計年度末に集中する傾向があり、四半期別の業績には季節的変動があります。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)を第1四半期連結会計期間の期首から適用しています。

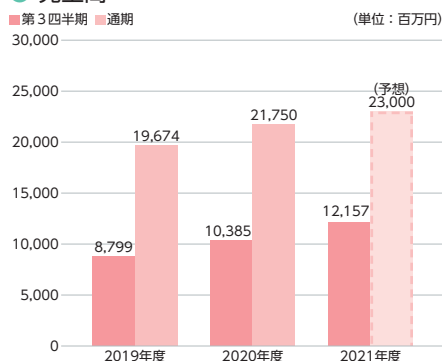
### ■通期の見通し

当社グループの受注につきましては、官需部門の受注が好調なことから、2021年11月11日公表の前回予想から増加して230億円となる見込みです。

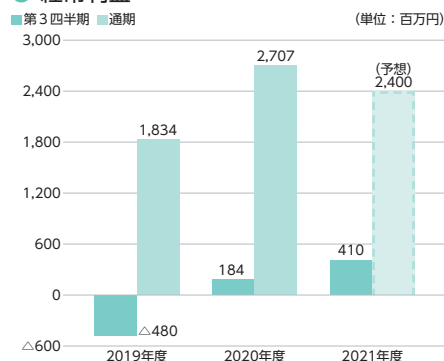
2022年3月期の連結業績予想につきましては、前回予想から変更はありませんが、新型コロナウイルス感染症の収束状況等、今後の様々な要因によっては、予想数値と異なる可能性があります。

## 連結財務ハイライト

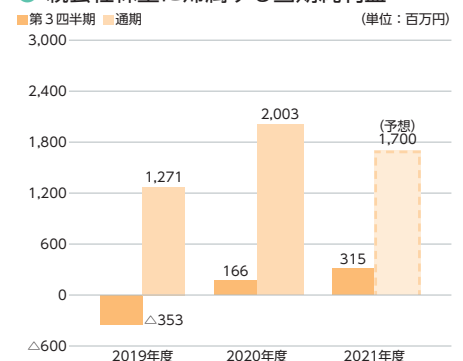
### ●売上高



### ●経常利益



### ●親会社株主に帰属する当期純利益



## 日本下水道事業団より「感謝状」を受領

### 佐久市下水道管理センター（長野県）災害復旧機械設備工事その2

2021年3月に竣工した「佐久市下水道管理センター災害復旧機械設備工事その2」において、日本下水道事業団から感謝状を受領しました。

本工事は令和元年東日本台風（台風19号）の影響による佐久市下水道管理センターブロワ棟の浸水被害からの復旧工事です。

河川の氾濫により送風機設備が被災したとの連絡を受け、現地調査を開始し浸水被害の報告をまとめ、契約後においては製作機器の進捗管理を細かく行い、関係各所と調整を図りつつ、計画工程通りに設備の復旧に貢献できたことが評価され、感謝状の受領に至りました。



## アラブ首長国連邦ドバイに中東支店を開設

昨年、アブダビ支店をドバイに移転し、10月より中東支店として営業を開始しました。2016年にアブダビ支店を開設して以来、中東地域及び周辺国におけるオイル&ガス、電力を中心とした営業活動を行ってまいりましたが、これらに加えて海水淡水化市場向けの強化を図り、また海外子会社であるDMWインド社との連携強化を見据えて中東地域のハブであるドバイへ移転したものです。当社の今後の中東・アフリカ地域向けビジネスの更なる飛躍を目指し、この中東支店をその活動の中心地として定め、近隣諸国のお客様との連携を深めながら、今後の一層の発展を目指してまいります。



## 地元高専生の工場見学及び職業座談会

2021年12月14日、当社三島事業所において、地元の沼津工業高等専門学校機械科の生徒40名を対象に工場見学及び職業座談会を開催しました。

当社には、同校出身者が多く在籍し、各職場で活躍しています。

工場見学の際には、学生を少人数ずつのグループに分けて見学して頂くなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上での開催となりました。

参加された学生にとって、今回の工場見学及び職業座談会が将来を見据える良いきっかけとなり、数年後に訪れる就職活動などの一助となることを願っております。



ホームページ  
のご案内

当社ホームページ

<https://www.dmw.co.jp/ir/>

最新のIR情報につきましては、  
当社のホームページ「IR情報」を  
ご参照ください。

「株主・投資家情報」  
検索はこちらから▼

電業社 IR

検索

